平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	デッサン2(Dessin 2)	授業コード	C166151
担当教員名	足立　元		
配当学年	1	開講期	後期
必修・選択区分	選択	単位数	1
履修上の注意または履修条件	1時間1時間の授業を大切にして下さい。実技を伴うデッサンでは、1課題毎に評価(採点)していますので、一度欠席をしただけでも最終的な評価は不利となります。欠席しないようにしてください。		
受講心得	この科目は皆さんが次の目標を達成できることをめざしています。授業時はもちろん、課外の予習復習(自習)を通して、これらの目標が達成できるように学習を進めてください。 ●想像による描写やデフォルメのトレーニングを通して表現の深まりを求める。 ●視覚の特性を理解し、物体の関係を把握して描写することができる。		
教科書	資料を配布します。		
参考文献及び指定図書			
関連科目	(先修科目) デッサン1 (先修・後修に関係なく関連性の高い科目) 造形1、造形2、造形3、造形4、CG基礎、CG1、CG2、CG3		

授業の目的	本科目は、鉛筆による描写の訓練を通して、デジタル技術を用いたビジュアル表現や映像表現の基礎となる表現力を養うことを目的とします。具体的には、次の3点を中心に実習形式で学習します。(1)観察による描写のトレーニングを重ねる事により、質感や量感、空間を感じる力を育成し、正確にものを見る力を養います。(2)対象の固有色や陰影に留意して明暗の調子を作りながら表現することにより、質感の表現を追及します。(3)モノトーンによる基礎的な表現の学習を通して視覚表現の奥深さを感じ取り、自らの視野を広げて多様な世界を理解することにより自由で瑞々しい表現を感じ取ります。
授業の概要	さまざまなモチーフを用いて、観察と表現のトレーニングを行います。画材は鉛筆と画用紙を主に用います。 デッサンの基礎として、グラデーション、線の扱い、面の捉え方などを学びます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 : 1　オリエンテーション デッサン(素描)の意味、内容などについて歴史的なことまで含めて事前学習をします。授業を通して、何のためにどのような力を付けようとするのかについて話をします。	課題1 オリエンテーション
第 2 週 : 2　形と明暗 形・視点の違いによる形の見え方の変化、明暗・陰影について学習します。陰影の表現方法などについての練習課題を出します。	課題2 グラデーション、手のデッサン
第 3 週 : 3　描画の要素 線の性質と感情、質感、量感、動勢についての学習をします。	課題3 人物クロッキー
第 4 週 : 4　描画の種類 描画における分類(方法による分類、形態による分類)、描画の種類などについて学習します。	課題4 目の描き方
第 5 週 : 5・6　人物の表現(実態把握) 対象を見る力、表現する力についての実力を知るために、人物の上半身を描くという課題を出します。	課題5 人物デッサン(友人)

第 6 週 : 人物の表現（実態把握）2 第5回に続いて対象を見る力、表現する力についての実力を知るために、人物の上半身を描くという課題を出します。	課題6 人物デッサン(友人)
第 7 週 : 　稜線の捉え方 第6の課題作品の反省点を指摘します。その上で顔の稜線を描くという課題を通して、対象をより造形的に見る（把握する）方法を学習します。	課題7 稜線の捉え方
第 8 週 : 8･9　量を求めて 戸外でのスケッチを通して、量感についての学習を行います。	課題8 量を求めて
第 9 週 : 量を求めて2 戸外でのスケッチを通して、量感についての学習を行います。	課題9 量を求めて
第10週 : 10～12　石膏デッサン 対象物の形態や明暗、構造などを石膏像を描くことを通して学びます。これまで学習した線や面の表現、陰影、量感などを実践的に用いる訓練を行います。	課題10 石膏デッサン
第11週 : 石膏デッサン2 対象物の形態や明暗、構造などを石膏像を描くことを通して学びます。これまで学習した線や面の表現、陰影、量感などを実践的に用いる訓練を行います。	課題11 石膏デッサン
第12週 : 石膏デッサン3 対象物の形態や明暗、構造などを石膏像を描くことを通して学びます。これまで学習した線や面の表現、陰影、量感などを実践的に用いる訓練を行います。	課題12 石膏デッサン
第13週 : 13　人物の表現 少しだけ横顔がのぞく人物の上半身を描くという課題を出します。後ろ側の耳、髪、首筋、衣服の襟元などの表現を行います。	課題13 人物デッサン
第14週 : 14･15　人物の表現（自画像） これまでの人物の表現の学習の成果を計ります。課題作品を総括して、見ることの大切さ、表現することのたのしさを味わうとともに、後期の授業への礎とします。	課題14 自画像
第15週 : 人物の表現（自画像）2 これまでの人物の表現の学習の成果を計ります。課題作品を総括して、見ることの大切さ、表現することのたのしさを味わうとともに、後期の授業への礎とします。	課題15 自画像
第16週 : 期末試験	

授業の運営方法	（1）授業の形式	「演習等形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	
備考		

〇単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	表現の対象を観察する態度を養う。
【知識・理解】	対象の形態的な構造を把握し、立体として表現できる。
【技能・表現・コミュニケーション】	対象の固有色や陰影に留意して明暗の調子をつくりながら表現できる。
【思考・判断・創造】	複数の物体の関係を有機的に把握しながら表現できる。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		**10点**		
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		**30点**		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		**30点**		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		**30点**		

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	**評価の実施方法と達成水準の目安**
レポート・作品等（提出物）	
発表・その他（無形成果）	